

## ベリーズ犯罪等発生状況（令和7年2月分）

### [殺傷事件・銃撃事件関連]

2月7日【銃撃事件】 午後4時15分頃、ベリーズ市のイグアナ通りとアンテロープ通りの交差点において、男性（22歳）が右手首を撃たれる事件が発生した。被害男性が交差点付近を歩いていた際、大きな音が聞こえ、その直後、右手首に焼けるような痛みを感じたと述べている。被害男性は、カール・ヒュースナー・メモリアル・ホスピタルで右手首の治療を受けた。警察によると、犯行現場からは事件の詳細を示す証拠が出ておらず、近隣住民への聞き込みを続けている。

2月8日【発砲事件】 午前10時45分頃、ベリーズ市南部地域にあるウエスタン通りにおいて、発砲事件が発生した。警察によると、市内をパトロール中の警察車両が4発の発砲音を確認、すぐに銃声が聞こえた現場へ向かい捜査を行ったが、容疑者を発見することはできなかった。警察は、市民による無差別な発砲、ギャング関連の双方から捜査を続けている。

2月9日【銃撃事件】 未明、カヨ郡ティーケトル村で男性が銃撃され死亡しているのが発見された。警察は、事件の詳細は不明であるとし、事件の公式発表は行っていない。

2月11日【殺傷事件】 スタンクリーク郡ホープクリーク村で殺人事件が起きた。被害者は友人宅で社交中に射殺されたと伝えられている。被害者は職業訓練所のインストラクターである23歳のサイモン・アラナと特定された。報道によると、アラナが隣人宅のベランダで動かずに横たわっているのが発見される前に、2発の銃声が聞こえたという。

2月15日【ギャング団リーダーの弟を銃撃】 午後6時頃、ベリーズ市のノースフロント通りにおいてギャング団リーダーの弟（32歳）が銃撃される事件が発生した。警察によると、被害者は友人たちとの釣りを終え水上タクシーで市内へ戻り、水上タクシーの船着場に到着した際、棧橋付近にいた不審男性2名に銃撃された。被害者は頭部を負傷し、KHM病院へ搬送されたが命に別状はない。

2月18日【ギャング団メンバーを銃撃】 午前3時頃、ベリーズ市のプリンセス・ホテル・アンド・カジノ付近において、有名なギャング団メンバーの男性（36歳）が銃撃される事件が発生した。警察によると、男性は仲間と2人で夜道を歩いていたところ、近くの駐車場に停車していた車から2人組の男らが降りてきて、男性らに向けて突如発砲した。男性は銃弾により左足を負傷したが、KHM病院まで自力で運転し治療を受けたあと、退院した。

2月22日【**作業中の男女を銃撃**】 午後1時頃、ベリーズ郡ハッティビル村で男性1名が死亡、女性が軽傷を負う銃撃事件が発生した。警察によると、被害男性と女性はハッティビル村のイースト・ウィンドミル地区で防犯カメラを設置していたところに近くの茂みから現れた3人の男に銃撃された。その後、通報を受けて駆け付けた警察官の手配により、被害男性と女性はKHM病院へ搬送されたが、被害男性の死亡が確認され、女性は軽傷だった。後日、警察の捜査により同村に住む主犯格と思われる男性1名が逮捕された。なお警察は、被害男性はギャング組織に誤って狙われた可能性が高いと発表している。

2月23日【**銃撃事件**】 午前7時30分頃、ベリーズ市のロスペン道り沿いの自宅にて、男性（26歳）が銃撃される事件が発生した。警察によると、被害男性は自宅の軒先に座っていたところ、バイクに乗った2人組の男が被害男性に近づき、突然発砲した。通報を受けた警察官が現場へ到着すると、被弾して苦しむ被害男性を発見した。被害男性はそのままKHM病院へ救急搬送され、治療を受け命に別状はなかった。銃撃犯らは逃走し、警察が行方を追っている。

2月24日【**アメリカ人有力不動産業者の殺害事件（当館注目）**】 午後9時頃、スタンクリーク郡プラセンシア村にある「ヴィラ・アット・ココプラム」の前でアメリカ人不動産業者の男性（56歳）がうつ伏せの状態での死亡しているのが発見された。警察によると、被害男性の後頭部は銃弾により打ち抜かれた痕があり、その後、病院に救急搬送され死亡が確認されている。被害男性は何者かに狙われていた可能性が高いとみられており、この被害男性は、過去に殺害された友人で同業者だった2人の殺害された事件の証拠を掴んでおり、容疑者リスト、詐欺の手法とマネーロンダリングの証拠、通話記録、SNSやメールのメッセージ内容等を所持していた。これらの証拠を信頼できる仲間に預けていた被害男性は、自分が何者かに追われていると感じており、万が一、殺害されてしまった場合は、預けていた証拠を主要メディアに公開するよう依頼していた。警察は、被害男性が暗殺されたとみて捜査を続けている。

## 【強盗事件・窃盗事件関連】

2月6日【**侵入窃盗事件**】 午後11時から翌正午頃にかけて、ベリーズ郡レディビル村のエグバート・キルター通り沿いの民家において、窃盗事件が発生した。被害女性（24歳）は、自宅からiPhone、iPad、Bluetoothスピーカー、その他貴重品を含めBZ\$1,800（約13万円）相当が盗まれていたため警察へ通報、その後の捜査で近隣に住む男性（25歳）を逮捕、起訴した。同月11日の午前9時頃、被告人の男性は裁判所へ出廷し、自身の罪を認めた。裁判官は当初、男性に対しBZ\$5,000（約37万円）の罰金を求めたが、

初犯であることや逮捕後の捜査に協力的だったことからBZ \$ 2,500 (約18万5千円)へ減額された。

2月12日[強盗事件] 午後8時40分頃、カヨ郡サンイグナシオ町のバーズ通りにある日用品店「ホットサマーズ」において、強盗事件が発生した。警察によると、フードとボロ布で顔を隠した2人組の男性が銃を所持した状態で店へ入ってきた。犯人の1人が銃で男性オーナーとオーナーの妻を床へ伏せるように脅した。その間、もう1人の犯人がレジからBZ \$ 800 (約6万円)を奪い、犯人の2人組はワイト通りへ逃走した。

2月14日[強盗事件] 午後1時頃、ベリーズ市のリンドー・アレーにあるガソリンスタンドで強盗事件が発生した。店員の証言によると強盗犯は3人組で、1人はバケットハットを被り反射ベストを着た男性だった。この男性がガソリンを購入するために店員へ声をかけたところ、店員の後ろからもう2人目の男性が近づき銃器で店員を脅した。最初に声をかけた男性はレジからBZ \$ 641 (約4万7千円)を抜き取り、銃器を所持した男性は店員が身につけていた金色のネックレスを強引に奪った。強盗犯の2名は周辺を見張っていた3人目の男性と合流し、自転車に乗って逃走した。

2月17日[強盗事件] 午前0時15分頃、ベリーズ郡ハッティビル村の民家において強盗事件が発生した。警察によると家主が就寝中、侵入してきた男に起こされ銃で脅されながら現金の在処を問い詰められた。家主が混乱していると別の男が部屋に侵入し、部屋を物色し始めた。犯人らは、BZ \$ 3,000 (約23万円)及び身分証等の貴重品が入ったバックと、BZ \$ 400 (約3万円)相当のスマートフォンを奪い、逃走した。

2月22日[強盗事件] 午前5時30分頃、ベリーズ市のセメタリー・ロードの歩道上で強盗事件が発生した。警察によると、被害男性は建設作業員で職場に向かう途中、黒いシャツを着た男と茶色のズボンをはいた男ら2名に声をかけられ、突然、黒いシャツの男が被害男性の顔を銃で殴り、茶色のズボンの男が被害男性から約BZ \$ 600 (約4万5千円)を奪った。被害男性は当初、抵抗を試みたが相手が銃を所持していたため命の危険を感じ、抵抗をやめた。その後、犯人らはそのままコンクシェル湾方面へ逃走した。

2月25日[強盗事件] 午後11時頃、カヨ郡サンイグナシオ町のタコス屋において、強盗事件が発生した。警察によると、店主の被害女性は店の後片付けをしていたところ、見知らぬ男が突然現れ、被害女性の首を絞めて気を失わせたあと、当日の売上金と営業許可証を盗んだ。意識を取り戻した被害女性が警察へ通報し、事件が発覚した。被害女性は営業許可証の返還を求めSNS上での呼びかけを続けている。

## [違法薬物・違法銃器類関連]

2月3日[クラックパイプ所持] ベリーズ市ロッキー道り付近の東運河沿いにおいて、クラックパイプを所持していた男性(41歳)が逮捕され、法廷に出廷した。警察によると、容疑者男性は、前日の2月2日に東運河沿いの歩道上で、クラック・コカイン吸引用の金属製のパイプを所持していたところを警察に発見された。容疑者男性は、法廷にて自身の罪を認め寛大な処置を嘆願した。初犯だったこともあり、裁判官はBZ\$200(約15,000円)の罰金と裁判費用BZ\$5(約400円)を科した。3月14日までに支払われない場合、2ヶ月の禁固刑が科される。

2月5日[違法薬物を焼却処分] ベリーズ郡のサンペドロ町にある墓地の外れで、大量に押収した違法薬物の焼却処分が行われた。警察は、国内各地から押収した約30kgの大麻及び、約6kgのコカイン類、約3kgのハッシシ(形成大麻)を司法当局、法医学、報道メディア等の各関係者ら立ち会いのもと焼却処分した。政府広報局は、これら押収した違法薬物は記録に残され、焼却に至るまでのすべての過程を関係者らが立ち会ったと報じた。また警察は、違法薬物を撲滅するうえで、地域社会の協力と理解が必要であるとし、当局と民間が共同で取り組んでいくことが公共の安全と福祉の維持に不可欠であると強調した。

2月7日[米国人夫婦による大麻密輸] フィリップ・S・W・ゴールドソン国際空港において、米国テキサス州出身のヘアスタイリストの夫(36歳)と妻(35歳)が6グラムの大麻を持ち込んだとして逮捕、起訴された。同月11日の午前10時頃、拘留されていた夫婦は第一法廷に出廷し、規制薬物の密輸容疑で起訴された。当初、両者共に容疑を認めていたが、後に夫が大麻は自身のものであり、すべての責任は自分にあると述べた。検察官が妻への告訴を取り下げたため、裁判官は夫に対し、BZ\$300(約2万2千円)の罰金とBZ\$5の裁判費用の支払いを命じた。夫は、罰金と裁判費用を直ちに支払い、妻と共に米国へ強制送還された。

2月10日[規制薬物所持] フィリップ・S・W・ゴールドソン国際空港において、米国イリノイ州出身の男性(22歳)が大麻を持ち込んだとして逮捕、起訴された。男性が空港へ到着した際、他の乗客から大麻草の強い臭いがするとの通報があり、駆け付けた警察官が男性の荷物を検査したところ少量の大麻が発見された。この男性は、翌11日に第二法廷へ出廷し、自身の罪を認めた。判事はBZ\$1,000(約7万円)の罰金と裁判手数料BZ\$5の支払いを命じた。男性は直ちに罰金を支払い、釈放となった。

2月10日[無許可で銃器類を所持] ベリーズ郡サンペドロ町において、許可証なしで銃器類を所持していた男性3名(21歳、23歳、26歳)を逮捕、起訴された。警察による

と、警察の特殊捜査チームと関税局のチームが合同で地域の捜査を実施し、茂みの多い地域から許可証なく銃器を所持していた男性らを発見した。また警察は、実弾102発とライフル2丁、けん銃1丁を押収した。

2月20日【クラックパイプ所持】 同日午前、ベリーズ市のキングス・パーク在住の男性（50歳）がベリーズシティ治安裁判所へ出廷した。事件は2月12日に発生し、この被告男性の自宅を警察が家宅捜査し、違法薬物を吸うために使用される器具を発見したことで逮捕、起訴された。この罪で被告男性にはBZ \$ 400（約3万円）の罰金と裁判費用BZ \$ 5を4月30日までに支払うよう判決が下された。罰金を支払えない場合、被告男性には懲役4ヶ月間の刑が科せられる。

2月20日【大麻密売】 同日午後、ベリーズ郡レディビル村在住の漁師（23歳）がベリーズシティ治安裁判所へ出廷した。事件は2月19日に発生し、この被告男性の自宅を警察が家宅捜査し、密売目的の大麻105グラムが発見されたため逮捕、起訴された。この罪で被告男性にはBZ \$ 1,000（約7万5千円）の罰金と裁判費用BZ \$ 5を5月30日までに支払うよう判決が下された。罰金を支払えない場合、被告男性には懲役3ヶ月の刑が科せられる。

2月21日【麻薬密売】 同日午前、ベリーズシティ在住の男性（63歳）がベリーズシティ治安裁判所の第2法廷へ出廷した。事件は2月20日に発生し、この被告の自宅を警察が家宅捜査し、密売目的のコカイン約2グラムを発見したため逮捕、起訴された。被告は、持病のヘルニアを治療するためにコカインを所持していたと主張し、3月末にヘルニアの手術を受けるため寛大な判決を求めた。裁判官は被告男性の主張を考慮し、罰金BZ \$ 800（約6万円）と裁判費用BZ \$ 5を7月31日までに支払うよう判決を下した。罰金が支払えない場合は、被告に懲役8ヶ月の刑が科せられる

2月24日【大麻所持】 同日午前、ベリーズ郡サンペドロ町在住の男性（21歳）がサンペドロ治安裁判所へ出廷した。事件は2月13日に発生し、この被告男性が同町のボカデルリオ地区で大麻を吸っているところをパトロール中の警察官に発見され逮捕、起訴された。被告男性は大麻の喫煙の他、17.2グラムの大麻を所持していた。この罪により被告男性にはBZ \$ 1,500（約18万7千円）の罰金刑と、以前に窃盗罪で有罪判決を受けた際のBZ \$ 1,500の計BZ \$ 3,000を9月6日までに支払うよう判決が下された。罰金を支払えない場合は、懲役6ヶ月間の刑が科せられる。

2月24日【大麻密売】 同日午前、ベリーズ市のホーリーエマニュエル地区で警備員をしている男性（22歳）がベリーズシティ治安裁判所の第3法廷へ出廷した。事件は2月23

日に発生し、この被告男性は同地区のバーバラ・ハリス通りで大麻を吸っているところを警察官に発見されたため逮捕、起訴された。逮捕された男性の手荷物からは90グラムの大麻も発見されている。この罪で被告男性にはBZ \$ 600（約7万5千円）の罰金と裁判費用BZ \$ 5を5月30日までに支払うよう判決が下された。罰金を支払えない場合、被告男性には懲役4ヶ月の刑が科せられる。

## [その他事件・事故関連]

2月3日[偽造ビザが発見される] フィリップ・S・W・ゴールドソン国際空港でベリーズの捏造した査証で入国しようとしたモンテネグロ国籍の男性（23歳）と、共犯と思われるカヨ郡カマロッテ村在住の男性（49歳）が逮捕、拘留された。男性は以前にベリーズの入国ビザを申請したが、拒否されていた経緯があった。空港出口でモンテネグロ籍の男性を出迎えに来ていたカマロッテ村の男性は、査証偽造に協力した疑いがあるとしてその場で逮捕された。

2月17日[放火事件] 午前0時30分頃、ベリーズ市のケリー通り沿いにある民家で放火事件が発生した。警察によると、放火のあった家に住む女性（21歳）が就寝しようとしていたところ、玄関のドアが開き液体を撒くような音を聞いた。数分後、異臭を感じた女性が玄関へ行くと火の手が上がっていたため、燃え広がる前にバケツで水を汲み消火した。警察は付近の監視カメラ映像を確認したが、有益な情報は得られず捜査は難航している。

2月22日[リゾートホテルで女性観光客3名が死亡(当館注目)] 午前11時50分頃、ベリーズ郡サンペドロ町のリゾートホテルのスイートルームで米国籍の女性3名（23歳、24歳、26歳）が死亡しているのが発見された。警察によると、ホテルスタッフから警察に部屋へ宿泊している女性客達と連絡が取れなくなり、マスターキーで部屋の中を確認したところ女性客らが死亡していると通報があった。女性客らは嘔吐や口から泡を吹いていたため、捜査当初は薬物中毒を疑われていたが、その後の調査で一酸化中毒死であったことが判明した。この部屋のシャワーヘッドがノズル部分で加熱するタイプで、何らかの原因により不具合が生じ、不完全に加熱されたため一酸化炭素が発生し女性客らは中毒死した。

2月27日[麻薬カルテルによる見せしめ(当館注目)] 午前3時頃、オレンジウオーク郡サンアントニオ村において、1月下旬に行方不明になっていた男性の遺体が発見された。男性の遺体は頭部を銃弾で撃ち抜かれた痕があり、手錠をかけられた状態で頭からビニール袋をかぶせられテープで固定し、シートで包まれた状態だった。遺体にはスペイン語で「麻薬輸送機を撃墜し続ける裏切り者達は同じ末路を辿るだろう」というメモ書きとともに、コロザル警察署の警官6名の氏名がリストアップされていた。情報筋によると、遺体男性は麻

薬密売人と繋がりがあるとみられており、またリストに載っている警察官の1人は遺体男性の親戚で、遺体男性の協力者と目されている。警察当局は、麻薬組織と警察官との繋がりを否定しつつ、この事件について詳しく捜査を続けている。